

熊本県立天草拓心高等学校 令和2年度(2020年度)学校評価表

1 学校教育目標
「夢は空より高く 心は海より広く 道を拓かん」の校訓と「熊本の心」を基本理念とし、心豊かな人間性と活力にあふれた生徒一人一人の個性を十分に発揮させ、これからの未来を創造する魅力あふれる人材の育成と活気あふれた学校づくりを全力で目指す。

2 本年度の重点目標
<p>(1) 確かな学力を育成し、生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。</p> <p>ア 「主体的・対話的で深い学び」を通して、自ら課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を育む。</p> <p>イ 生徒の特性等を把握し、きめ細やかな教育を行う。</p> <p>ウ キャリア教育を通して社会的・職業的に自立できる態度を育む。</p> <p>(2) 豊かな情操と道徳心を培う。</p> <p>ア 生命を大切にする心や寄り添う心を育み、他者と協働できる態度を養う。</p> <p>イ 規律意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う。</p> <p>ウ 我が国の伝統と文化を尊重する態度と、グローバルに対応できる能力を育む。</p> <p>(3) 心身の健康を自己管理する態度を養う。</p> <p>ア 望ましい食習慣を含めた生活習慣を確立するための態度を養う。</p> <p>イ 情報モラル教育を推進し、より良い言語環境を通じて人権尊重の精神を育む。</p> <p>ウ 適正で魅力ある部活動を推進する。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校 経営	学校経営方針	・学校経営上の課題を踏まえた経営方針を全教職員に周知徹底し理解させる。	・全教職員に学校経営方針を認識させ、組織の一員として、すべての教育活動での実践を目指す。	・合同の職員会議や研修を通して校舎間の連携をさらに深め、魅力ある教育活動の実践を図る。各主任主事が日程の調整及び連絡体制を確立する。	A	・学校評価アンケートでも生徒・職員の方針理解度が増加傾向である。保護者への周知が課題である。
	開かれた学校づくり	・学校経営方針に沿った魅力的教育活動を発信する。	・中高連携や高大連携及び企業連携を通して本校教育の魅力を発信する。	・地域連携事業の推進とHPを利用した情報発信による魅力創造。 ・新しい生活様式を踏まえて、生徒の活躍の場を見ていただく機会を作る。	B	・可能な限り情報発信に努めたが、実施できない教育活動等もあり、もう一工夫必要であった。

	業務改善・学校改革	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と向き合う時間の確保。 ・教職員の働き方改革。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会及び放課後の会議数等の減少。 ・ライフワークバランスを考慮した働き方の見直し。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会の週1回の実施で学年連絡の充実とSHRIにおける時間の確保。 ・各主任主事と連携をして、校務分掌におけるOJTに積極的に取り組む。 ・部活動指導の負担軽減。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との時間確保は安定してできたが、会議数の削減が課題である。 ・教職員の年休取得日数が増加した。
学力向上	授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程研究 ・ICT環境改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指定校事業を通じたわかりやすい授業及び教育課程の研究。 ・遠隔授業にも対応できるICT環境の整備推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域協働推進企画部（本渡）・教育課程研究指定校事業推進委員会（マリン）と連携し、授業アンケートの改善や新教育課程の編成を行う。 ・他校の取り組みを研究し、本校の実情にあった体制で導入し、ICT機器の利用法について教職員への研修を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート改善を実施、新教育課程の編成を進めている。 ・研修とICT機材の整備を進め、一部遠隔授業も実施したが、無線LAN等整備が課題。
キャリア教育（進路指導）	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上並びに進路に関する諸能力育成を目指したキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の発信や進路希望等の情報の共有ができていますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、学校、関係機関との連携を強化し、個々の生徒に適した指導を充実させる。 ・進路部や学年部の連携を綿密に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への進路情報提供を学期毎に実施する。 ・進路希望調査や模擬試験等を集約し、自己の現状を把握し、目標達成のためのプロセスを設定させる。 ・連絡会や打ち合わせ等を月1回以上実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりを毎学期、発行・配布したが、学校評価アンケートの結果から保護者側に伝わっていない様子がある。WEBサイト等を活用した発信も検討していきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や各種見学会への参加、進路講話等は充実していたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動や各種見学会への参加率を高める。（目標80%） 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路に関するLHRや進路講話等を各学期に実施する。 ・職場見学や進路説明会への参加啓発指導を行う。 ・キャリアサポーターによる個別面談指導や講話を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に進路関係行事を実施するとともに、校外説明会なども参加啓発できた。キャリアサポーターによる個別面談や講話も実施できた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の特性等に応じた、きめ細やかな進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の特性や適正等を把握し、それらの結果を踏まえて生徒の進路希望を尊重した進路指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の視点で3年間の学習活動を整理し、検討する。 ・生徒の特性や適性を把握するための検査を実施する。 ・進路希望調査を各学期に実施する。 ・担任等による個別面談を各学期に実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・進路適性検査や進路希望調査を予定どおりに実施できた。また、それらの結果を個別面談等に活用し、進路指導につなげることができた。
生徒指導	規範意識の醸成 ～他律から自律へ～	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の定着について 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行 ・自ら挨拶のできる生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導時の挨拶励行。(生徒会活動含) ・教職員及び生徒間の挨拶に対する意識調査を行い改善に繋げる。 ・毎朝の登校指導を行い、継続的な指導を実践する。 ・スマホ等の依存からくる生活の乱れを全校集会やHR等を利用して改善する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活委員会で学期に1回挨拶運動をおこなった。登校指導へは全職員で実施することができた。遅刻が常習化している生徒への指導が課題である。
			<ul style="list-style-type: none"> ・清々しい整容 	<ul style="list-style-type: none"> ・年7回の整容指導を実施する。 ・生徒自身の整容面への意識向上を目的とする主旨を踏まえ、教職員間の連携を図りながら、日常の整容意識により力を入れる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・整容指導の再指導の生徒は減ってきている。今後、職員間で協力しながら、日常を変え、意識を変える。
			<ul style="list-style-type: none"> ・寮生活の充実(マリン校舎) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マリン校舎128名中69名が寮生である様々な課題を抱えて入学してくる生徒もいるが環境が変わることによって成長し、寮の雰囲気がこの雰囲気を持続するために舎監を含め教職員が安全・安心な寮づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係トラブルもあったが、各部署での早期対応もあり大きな問題とならなかった。長期欠席、中途退寮者もなかった。できる限りのコロナ対策を行い、安心・安全な寮生活を送ることができた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通ルールの遵守 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車・原付の乗車マナーの指導徹底。 ・ 交通違反件数の削減（昨年比10%減少） ・ 交通事故件数の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車通学生及び原付通学生に対しての講習会の実施。 ・ 通学生集会や講演会や教材等を活用し命の尊さについて考える機会をつくる。 ・ 交通安全に関する標語やポスターの掲示を行うなど、啓発活動を活発にする。 ・ 交通事故現場での対応マニュアルを生徒へ配付する。 	B	<p>事故に関して、年度当初は昨年の19件を上回るペースだったが、集会での講話等の効果もあり、結果的に6件に納めることができた。原付通学生以外の事故・違反への指導が次年度の課題である。</p>
人権教育の推進	差別やいじめのない学校・学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の人権感覚を身につける教育活動を推進することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常勤教職員の9割以上が校外研修に参加するなどし、教職員の人権教育への実践力を高めて教育活動にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外研修の年間参加計画を作成する。 ・ 「教科等の授業における人権教育の実践」に取組み、この実践を題材として校内研修を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修は実施することができたが、コロナ禍の影響もあり、校外への参加はできなかった。
	「命を大切に する心を 育む指導」 早期発見・ 早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談できる環境づくり組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人面談期間を活用し、生徒が相談しやすい環境や機会をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通して個別面談を実施できた。
			<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめに関するアンケートの実施 ・ スクールサインの有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年に3回いじめに関するアンケート調査を実施し、早期に発見し対応する。 ・ スクールサインに対しての迅速な対応を行い、早期対応に繋げる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート結果やスクールサインを活用し、職員間で情報共有をおこない迅速な対応ができた。
読書指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊かな心と思考力の育成を目指した読書活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館利用率（図書の貸し出し数）の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒貸出数1人あたり年平均本渡校舎6冊、マリン校舎12冊を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝読書の時間確保、図書館便りの発行、図書館における読書環境の整備、生徒図書委員会活動の活性化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本渡校舎は目標にわずかに届かない見込みだが、マリン校舎ではほぼ達成できる見込みである。さらなる工夫をしたい。
いじめの防止等	いじめ根絶のための啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織的な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ防止対策会議の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育相談部など他部署と連携を深め、いじめ防止対策会議を適宜開催し、対応策、未然防止策を全職員で共有する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任・学年・他分掌部とも連携を図りながら、組織的な対応ができた。

	いじめ根絶のための啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を育み、良好な人間関係構築のための支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的行動指標や標語、ポスター等の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会で本校のいじめ根絶宣言を全校生徒に周知する。またいじめ根絶に向けたポスター掲示や標語の募集を行い、生徒自らが人権感覚を磨く機会をつくる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で集会はできなかったが、各クラスでの人権教育LHRを充実させ、人権感覚を磨く機会をつくった。
安全教育	事故防止の徹底と安全な避難	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の安全点検 ・危機管理マニュアル、防災マニュアルに沿った取り組みを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の徹底 ・防災意識の高揚 ・災害時迅速な連絡周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を学期に一度実施する。 ・防災訓練の実施、防災研修で危機管理マニュアル、防災マニュアルの周知徹底。 ・災害時は緊急メールで注意喚起する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検を月1回実施することができた。防・消火避難訓練で防災意識の高揚を図った。 ・9/6台風10号では防災型CSとして避難所協力できた。
地域連携 (コミュニティ・スケールなど)	保護者や地域等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興のため地元自治体、企業へ協力・育友会との連携 ・広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域産業振興に協力し、学校教育に活かす。 ・育友会と連携し学校行事の充実に協力を得る。 ・地域に情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業の製品開発、本校の実習製品開発に協力し合い協同開発を進める。 ・育友会と連絡を取り、学校行事へ協力して頂く。 ・教育活動の様子をホームページで発信するなど情報発信に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SBP活動で防災非常食を製造した。地協は2年目となり、AFL科において研究活動を深めている。 ・育友会より、長距離走大会時の交通指導、パンの配付をしていただいた。 ・ホームページも随時更新することができた。